

自主検査チェック一覧

No	項目	注意点	チェック欄				備考
			施工者			市	
			図面	写真	現場		
1 管布設							
-1	延長は人孔中心間としているか？		☐	☐	☐	☐	①延長の誤差は協議不要
-2	管勾配は適切か？	①滞留がないか？ ②管路の通り(水平、鉛直)は適切か？ ③管基礎の転圧は適切か？ ④枕(枕木、土のう)は使用しない ⑤5%未満の場合は、承認した勾配が確保できているか？	☐	☐	☐	☐	【写真】 変位確認、管基礎・埋戻し転圧状況
-3	不要な管は撤去したか？また、竣工図に撤去管を図示したか？	①管種・口径・延長を図示すること	☐	☐	☐	☐	【写真】 撤去状況、管口閉塞
2 取付管							
-1	箇所数に変更はないか？		☐	☐	☐	☐	変更の場合は、事前に要協議
-2	延長は管中心から敷地境界までとしているか？	①延長は少数第1位止めとする	☐	☐	☐	☐	①延長の誤差は協議不要
-3	勾配は適切か？	①滞留がないか？ ②管路の通り(水平、鉛直)は適切か？ ③自在曲管下部の転圧は適切か？ ④枕(枕木、土のう)は使用しない	☐	☐	☐	☐	【写真】 変位確認、管基礎・埋戻し転圧状況
-4	支管は番線固定したか若しくは固定ツメタイプの場合は締め込み位置が正常か？隣接との離隔は1.0m以上を確保しているか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】番線固定 【要写真】締め込み状況 ※固定ツメタイプの場合
-5	不要な管は撤去したか？また、竣工図に撤去管を図示したか？	①管種・口径・延長を図示すること	☐	☐	☐	☐	【要写真】撤去状況、管口処理
-6	最終樹の深さ、蓋の仕様は適正か？	①排水設備技術基準に準じているか？ ②宅内排水設備は接続可能か？	☐	☐	☐	☐	①深さが1.5m以上の場合は樹口径注意
-7	明示鉢を設置したか？		☐	☐	☐	☐	汚水、合流の場合
3 人孔							
-1	蓋の仕様・蝶番の位置は適切か？	①道路勾配6%以上、又は、交差点部は耐スリップ蓋とすること ②蝶番の位置 ・デザイン: 子午線向きと方位磁針を一致 ・耐スリップ: 坂道の場合は上手、交差点の場合はステップ上部	☐	☐	☐	☐	
-2	適切な箇所に転落防止梯子を設置したか？	①雨水は、全てに設置 ②汚水は、深さ2.0m以上の箇所に設置	☐	☐	☐	☐	
-3	調整ブロックは2枚以上としたか？		☐	☐	☐	☐	
-4	ボルトは斜壁に定着しているか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】Co防護
-5	受枠の無収縮モルタルは充填されているか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】充填状況
-6	人孔深、管底高の記載は適切か？		☐	☐	☐	☐	
-7	インバートに滞留はないか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】流下状況
-8	管接続部の可とう管、Co防護は適切か？		☐	☐	☐	☐	【要写真】Co防護
-9	削孔離隔(外側)は10cm以上あるか？		☐	☐	☐	☐	
-10	副管は適切に施工したか？	承認図通りに施工したか？	☐	☐	☐	☐	
4 舗装							
-1	範囲、厚みは適正か？	復旧範囲、路盤・舗装厚は適正か？	☐	☐	☐	☐	【要写真】乳剤散布、厚み計測
5 管理用地							
-1	境界杭は設置したか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】設置状況
-2	看板のサイズ、文字は、承認通り設置できているか？	看板のサイズ、記載内容、設置位置、固定方法について、事前に承認を得ること	☐	☐	☐	☐	【要写真】看板拡大
-3	看板の設置位置・固定方法は、承認通りに設置できているか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】設置状況
6 社内検査							
-1	図面、写真が適切に作成できているか検査し、申請者に報告したか？	社内検査(書類、現地)、是正作業の状況写真を完成届に添付すること	☐	☐	☐	☐	【要写真】書類確認状況
-2	現地が図面通り完成していることを確認したか？		☐	☐	☐	☐	【要写真】現場検査状況

令和 年 月 日

上記項目について、社内検査を行い図面、写真、現地が適正であることを確認しました。

確認者(施工者)のサイン

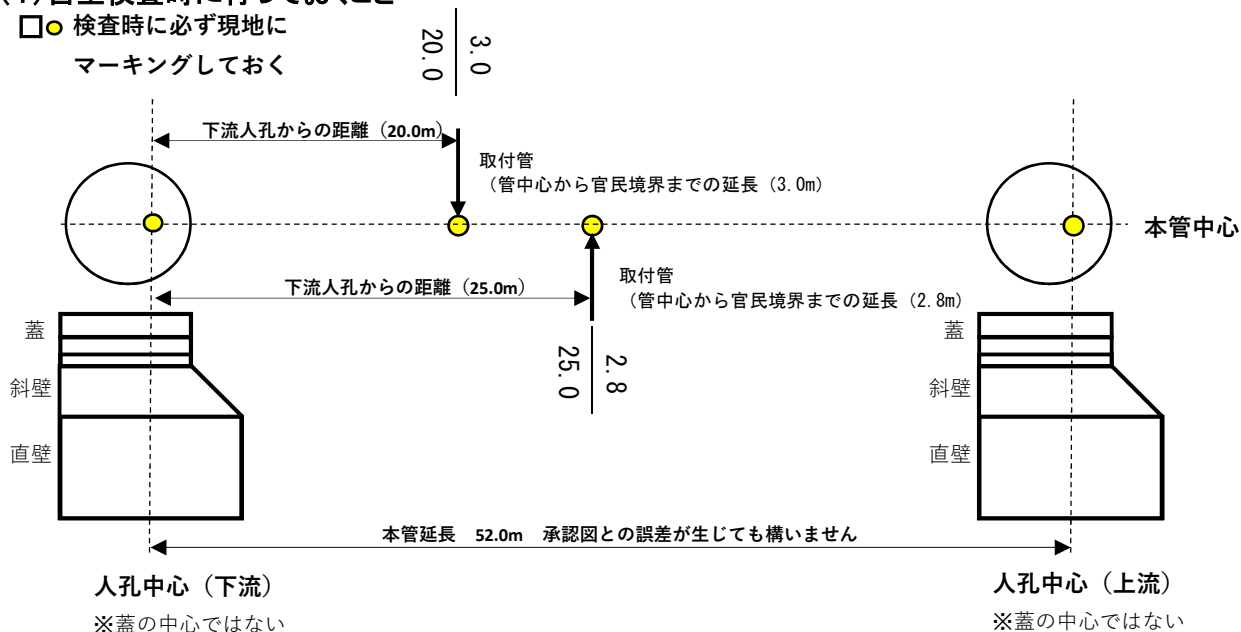
(会社名)

(担当者)

完成検査の準備

(1) 自主検査時に行っておくこと

- ☐ ● 検査時に必ず現地に
マーキングしておく



(2) 完成検査当日の段取り

検査予定時刻の15分前には次の準備を整えて、検査員の到着を待つこと。

- ☐ ①施工者は、検査に必要な人員を配置すること。
 - ☐ 車道で検査を行う場合は、必要な交通誘導員を配置すること。
 - ☐ 本管検査の場合は、最低3名の人員を配置すること。
 - ☐ 取付管検査の場合は、最低2名の人員を配置すること。
 - ☐ 本管と取付管の両方を同時に検査する場合は、最低5名の人員を配置すること。
- ☐ ②施工者は、検査開始時に検査員用に2枚（申請者控えは別途）の竣工図を用意すること。
- ☐ ③施工者は、検査に必要な以下の用具等を準備すること。
 - ☐ 通水用の水（目安：本管1杯/15m、取付管1杯/5箇所） ※タンク1杯は18ℓ
例. 本管30m、取付管10箇所の場合は、最低4杯をご用意ください
 - ☐ 鏡、懐中電灯、MH・最終柵の蓋開閉用具、巻尺（50m以上）、コンベックス（5m以上）、スタッフ（人孔深計測）

よくある手直し事例

No	内容	注意事項
1	本管・取付管の通り（勾配、水平・鉛直変位）が一樣でない（滞留など） 【主な発生原因】 ①管の保管状況が適切でない（管の変形） ②設置時の高さ・変位管理の不備（勾配不足、たるみ） ③設置時に枕（枕木、土のう）を使用した（たるみ） ④管基礎の転圧不足（たるみ） ⑤地下埋設物近接部の転圧不足（たるみ）	・発生原因対策を適切に行い、これを示す写真を撮影し完成届に添付してください。 ・管布設、埋戻し後に通水試験をして、適切に設置完了していることを確認してください。 ・維持管理上問題があると判断された場合（特に勾配が5%未満の場合は注意）は、舗装後であっても手直し対象となります。
2	取付管設置における最終柵及び自在曲管の滞留 【主な発生原因】 ①設置時の高さ・変位管理の不備（勾配不足、たるみ） ②管基礎の転圧不足（たるみ）	・発生原因対策を適切に行い、これを示す写真を撮影し完成届に添付してください。 ・管の維持管理上問題があると判断された場合（特に勾配が1%未満の場合は注意）は、舗装後であっても手直し対象となります。
3	取付管設置時における近接支管との間隔不足 【主な発生原因】 ①近接支管の位置確認を怠った	・事前に台帳や隣地の状況を確認し1.0m以上を確保する。また、1.0m未満の場合は、事前に市と協議する。 ・施工時に他の地下埋設物があるなど、1.0m以上の確保が困難になる場合は、事前に市と協議する。
4	基礎材に山砂を使用した ※明石市は、水砕スラグor海砂を指定 【主な要因】 ①他市で山砂を使用しているの、使用してしまった ②承認図面を確認していなかった	・必ず承認図面を確認して施工するようにしてください。 ・使用した山砂の粒径、管勾配、施工状況等により、維持管理上問題があると判断された場合は、舗装後であっても全線（本管・取付管）手直し対象となります。
5	本管・取付管延長の計測・記載間違い 【主な要因】 ①本管の延長は、「人孔中心間の延長」であることを知らず、蓋中心間の延長を計測してしまった。 ②取付管の延長は、「本管中心から官民境界までの延長」であることを知らず、本管中心から柵中心までの延長を計測してしまった。	・必ず承認図面、チェック一覧を確認して延長管理してください。